

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公表番号】特表2001-522454(P2001-522454A)

【公表日】平成13年11月13日(2001.11.13)

【出願番号】特願平10-542276

【国際特許分類第7版】

G 0 1 N 33/50

C 1 2 Q 1/25

C 1 2 Q 1/48

【F I】

G 0 1 N 33/50 Z

C 1 2 Q 1/25

C 1 2 Q 1/48 Z

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年4月7日



特許庁長官 小川 洋 殿

1. 事件の表示

平成10年 特許願 第542276号

2. 補正をする者

住 所 デンマーク国、ソボルグ ディーケー-2860、モルクホイ
ビガーデ 28

名 称 バイオイメージ エイ/エス

3. 代 理 人 〒530-0047

住 所 大阪市北区西天満5丁目1-3南森町パークビル

電話 (06) 6365-0718

ファクシミリ (06) 6365-9279

氏 名 弁理士 (6524) 野 河 信太郎



4. 補正対象書類名

「請求の範囲」

5. 補正対象項目名

「請求の範囲」

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおりに補正する。



請求の範囲

1. 生物活性ポリペプチドの転位に直接または間接的に影響する生物活性物質を同定することを含み、

該生物活性ポリペプチドが、細胞内シグナル経路の活性化により細胞内過程に影響するポリペプチドであり、

該細胞内シグナル経路が、それにより生細胞が外部又は内部のシグナルを細胞応答に変換する調和した細胞応答過程であり、

該細胞内シグナル経路が、酵素反応を含み、

方法が：

(a) ヌクレオチド配列を発現させる条件下で、生物活性ポリペプチド又はその一部に結合した、核酸によりエンコードされる発蛍光団を含むハイブリッドポリペプチドをコードする核酸を安定的に発現する1つ以上の細胞を培養し、

(b) 少なくとも1つの細胞を、生物学的機能又は生物学的効果についてスクリーニングされる物質とインキュベートし、

(c) インキュベートされた少なくとも1つの細胞の発蛍光団から放射される光を測定し、そして該発蛍光団から放射される光に関する結果又は変動（該少なくとも1つの細胞内の生物活性ポリペプチドの転位を示す）を記録する

ことを含む、スクリーニングのための方法。

2. 工程(c)が、発蛍光団から放射される空間的な分散光における変動（少なくとも1つの細胞内の生物活性ポリペプチドの転位を示す）を記録することにより、生物活性ポリペプチドの転位に関する定量情報を抽出することにより行われる請求項1に記載の方法。

3. 発蛍光団が、物質の影響の度合に生理学的に関連するように転位

可能な発蛍光団である請求項1または2に記載の方法。

4. 発蛍光団が、物質の影響の度合に相関することが実験的に決定されるように転位可能な発蛍光団である請求項1～3のいずれか1つに記載の方法。

5. 発蛍光団から放射される空間的な分散光に関する結果又は変動が、発蛍光団と発蛍光団にエネルギーを伝達しうる他の発光体との共鳴エネルギー転移の変化によって検出され、

該発蛍光団と該発光体の各々が、細胞内シグナル経路の特定成分の一部となるか、それらと結合又は会合するよう選択もしくは設計され、かつ該発蛍光団と該発光体のうち1つが影響に応じて転位を行い、それにより共鳴エネルギー転移の量を変化させ、

共鳴エネルギー転移の変化が、発蛍光団からの放射強度変化として測定される

請求項2～4のいずれか1つに記載の方法。

6. 発蛍光団から放射される光に関する変動又は結果の記録が、空間的な分散光を1以上のデジタル画像として記録することにより行われ、1以上の代表的な再分布の度合に記録した変動又は結果を縮小する処理が、デジタル画像処理法又はデジタル画像処理法の組合せからなる請求項2～5のいずれか1つに記載の方法。

7. 発蛍光団が、緑色蛍光タンパク質（GFP）である請求項1～6のいずれか1つに記載の方法。

8. GFP が、F64L 変異を有する GFP からなる群から選択される請求項1～7のいずれか1つに記載の方法。

9. GFP が、F64L-GFP、F64L-Y66H-GFP、F64L-S65T-GFP と EGFP からなる群から選択される GFP 変異体である請求項1～8のいずれか1つに記載の方法。

10. 少なくとも1つの細胞が、哺乳類細胞で、影響が観察される期間、30℃又はそれ以上の温度、好ましくは32～39℃の温度、より好ましくは35℃～38℃の温度、最も好ましくは約37℃の温度でインキュベートされる請求項1～9のいずれか1つに記載の方法。